

近藤亜樹：我が身をさいて、みた世界は



近藤亜樹《ザ・オーケストラ》2024年
©The artist, Courtesy of ShugoArts.
撮影：武藤滋生

【展覧会概要】

展覧会名：近藤亜樹：我が身をさいて、みた世界は

会 期：2025年2月15日（土）～5月6日（火・振休）

開場時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）

会 場：水戸芸術館現代美術ギャラリー

休 館 日：月曜日、2月25日（火）※2月24日（月・振休）、5月5日（月・祝）は開館

入 場 料：一般900円、団体（20名以上）700円

高校生以下／70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

◎1年間有効フリーパス「年間パス」2,000円

◎学生とシニアのための特別割引デー「ファーストフライデー」：毎月第一金曜日は
学生と65～69歳の方が100円で展覧会をご鑑賞いただけます。※要証明書

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

協 力：シュウゴアーツ、サントリーホールディングス株式会社

展示構成：青木淳

企 画：後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

躍動感溢れる筆遣いと力強い色彩の絵画で知られる近藤亜樹（1987年—）の個展を開催します。近藤は、東日本大震災の余波に人々の心が揺らぐ2012年に画家としてデビュー。日常の事物や記憶に残る人々の面影、植物、幼子の言葉といったプライベートなモチーフから生と死や超越的な自然の力といったテーマまでを自身のなかに受け止め、それらを描くことで異なる者同士が「いま・ここ」につながり合う世界を展望してきました。ときに抗しがたい出来事に向き合い、他者の存在やつながりを感じ取るなかで生み出されてきたその作品は、小さくささやかな存在や名状しがたい兆しに光を当て、人間の感受性を呼び覚まします。本展では、生命の祝福、他者と共に在ること、2022年以降ますます切実さを帯びる災害や戦禍にある人々への想い、葛藤とレジリエンスなど、近藤亜樹の作品をとおして「生きること」と「描くこと」が切り開く世界に迫ります。

【作家プロフィール】

近藤亜樹（こんどう あき）

1987年北海道生まれ。2012年サンフランシスコ・アジア美術館での企画展「PHANTOMS OF ASIA: Contemporary Awakens the Past」に10メートルを超える大作絵画《山の神様》を出展。以後、描くことで現実に向き合う自らの創作を探究し、2015年には約14,000枚の油彩と実写を組み合わせた鎮魂の映画《HIKARI》を発表するなど、絵画表現の可能性を拡げてきた。2020年から山形県を拠点に活動している。

主な展覧会に「わたしはあなたに会いたかった」（個展、シュウゴアーツ、2023年）、国際芸術祭「あいち2022」（2022年）、「星、光る」（個展、山形美術館、2021年）、「高松市美術館コレクション＋身体とムービング」（高松市美術館、2020年）、「絵画の現在」（府中市美術館、2018年）など。受賞歴に2022年VOCA奨励賞、2023年絹谷幸二芸術賞などがある。



Courtesy of ShugoArts.
Photo by Kohei Shikama

【展覧会のポイント】

○近藤亜樹4年振り、過去最大規模の個展

近藤亜樹の2022年以降の作品と、今展に向けて制作された50点を越える新作を一挙に展示する作家にとって過去最大規模の個展です。本展では、生への肯定や他者と共に在ること、人間的な尺度を越えた自然の世界、植物とのささやかな交感、芸術の根源に対する問いなどをテーマに、絵画表現の可能性を切り開く近藤の現在を、建築家・青木淳氏による展示構成によって展覧します。

（出品作品例）

- ・芸術の下にあらゆるものが協奏する大型絵画《ザ・オーケストラ》（新作・図版1～3）
- ・脆弱さのなかにある確かな生命のメッセージ―植物との交感を描いた新作（図版4・5）
- ・誰かに会いたい気持ちを解き放つポートレイトの連作「わたしはあなたに会いたかった」（2023年～）を、既出13点に本展のための新作を加えたインスタレーションとして一堂に展示（図版6）
- ・厄災の先に世界の希望を見通す《ともだちになるためにぼくらはここにいるんだよ》（2022年・図版8）、「子ども」のように心のままに表現する喜びへと立ち返る《I Love You》（2022年・図版9）、一つの存在と世界とのつながりを象徴的に描いた《Planets》（2022年・図版10）ほか

○幅9メートル超の新作絵画《ザ・オーケストラ》―喜びや悲しみ、葛藤や回復の過程を昇華させ、見る者と一体になる絵画を体験する

本展のみどころの一つとなる9メートル超の新作絵画《ザ・オーケストラ》は、喜びや悲しみ、困難の受容と再起への希望とが芸術として昇華され、個々の表現が一体となる瞬間を描いた躍動感溢れる大作です。人間のみならず動物や植物、昆虫や擬人化された音の粒が混然となって画面を埋め尽くす様には愉快さやユーモアがあり、また画面から溢れんばかりの色彩と筆致には、イメージを逃すまいとする表現への食欲さを感じさせます。落雷に打たれてもなお新しい芽を宿す松の巨木から着想し、本展に向け作品を描き進めるなかで、近藤の念頭には指揮者・小澤征爾氏（当館前館長）の存在があったと言います。近藤が先人に問いかけた「音のかたち」「芸術の力」とは、どのようなものなのでしょう。

会期中、本作を音楽家の演奏とともに味わう関連プログラムも開催予定です。

○いろいろな姿や顔の「サボテン」に出会う

本展に向けて近藤が注力するのがサボテンをモチーフにした新作シリーズです。ユニークなかたちや特徴をもつ、近藤の大小の「サボテン」は、生命力のシェルターとも、あるいは自己・他者を慈しむ気持ち（コンパッション）の象徴とも見ることができそうです。本展では、展示設計の青木淳氏、そして「いい顔してる植物」をコンセプトに活動する「叢」とのコラボレーションで、さまざまな「サボテン」に出会うインスタレーションを展開します。

○「描くこと」と「生きること」が切り開く世界

初期代表作《山の神様》（2012年）をはじめ大型絵画で発揮されてきたダイナミックな画面構成や、身近な事物から超自然的な世界までを行き来する自由な発想とそれを描き留める画力、見る者の内面を見つめ返すようなポートレートなど、近藤の作品にはいずれも、絵に対峙する者の感受性を掻き立てる力があります。その表現は、極めて私的な出来事や彼女を取りまく世界とともに少しずつ変化し、災害や紛争、パンデミックなど危機的状況を「描くこと」で受け止めながら、生きることそのものへの祝福となって人々の心を震わせてきました。

「我が身をさいて、みた世界は」という本展のタイトルには、ときに困難に直面し、身を切る思いでもがきながらも、「いま・ここ」から世界の広がりを見ようとするアーティストの姿勢が表されています。それはまた、生きていく上で引き受けざるを得ない逆境や葛藤に見舞われたとき、それらを乗り越えようとするなかで至る実感にも通ずるのではないのでしょうか。形式や美術史的コンテクストのみを抛り所とすることなく、一貫して「今を生きている」者として描き続ける近藤の作品から私たちはどのような世界を見通せるのか。本展では、活動初期から近藤が問い続ける「生きること」と「描くこと」のつながりについて、その近年の作品から改めて見つめ直します。

○新作について掘り下げる展覧会関連プログラム

詳細が決まり次第、当館ウェブサイト等でお知らせします。

・「ザ・オーケストラの部屋」

新作絵画《ザ・オーケストラ》を音楽家の演奏とともに味わうミニコンサートを開催します。

・「叢」ワークショップ&トーク

本展に向けた制作過程で近藤に多くの気づきをもたらした「サボテン」。「いい顔してる植物」をコンセプトに活動する植物屋「叢」の小田康平氏と近藤が「サボテン」について語ります。

「叢」が日本中から集めた植物の販売とワークショップも開催。

1987 年 北海道に生まれる

2005 年 東北芸術工科大学入学。宮島達男氏、中山ダイスケ氏、根岸吉太郎氏らから薫陶を受ける。在学中、宮島氏によるワークショップ「芸術はアフリカの子どもたちを救うことができるのか？」に参加

★《ウータン山》で「NIPPON ART NEXT 2010」グランプリ受賞

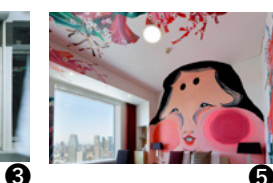
東日本大震災が発生

2012 年 東北芸術工科大学大学院修士課程芸術文化専攻実験芸術領域 修了

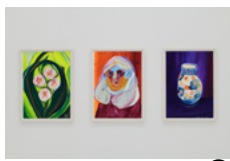
関東に拠点を移す



撮影：永峰拓也

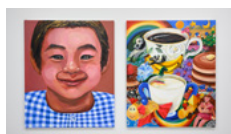


2017 年 香川県小豆島に拠点を移す
第一子妊娠直後に夫君が客死
北海道で第一子を出産



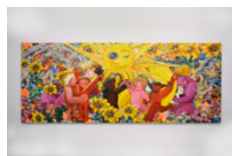
新型コロナウイルス感染症の世界的大流行

山形県に拠点を移す



★《ぼく ここにいるよ》^⑨で VOCA 奨励賞受賞

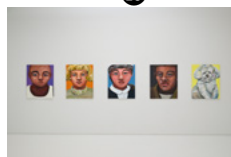
ロシアによるウクライナ侵攻が始まる



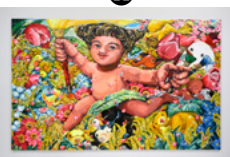
⑩



⑪



⑫



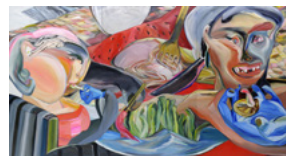
⑬

★絹谷幸二芸術賞受賞

2010



①



②

2012 年 サンフランシスコ・アジア美術館「PHANTOMS OF ASIA: Contemporary Awakens the Past」に 10m 超の大作《山の神様》^①を出展

シュウゴアーツでの初個展「たべる地球」^②を開催

2014 年 実家 JIKKA「近藤亜樹の生態」^③で 1 カ月間の公開制作に挑む

2015

2015 年 制作に丸 1 年をかけた映画《HIKARI》^④を発表
パークホテル東京の委嘱で「アーティストルーム おたふく」^⑤を制作



④

2018 年 シュウゴアーツで紙作品を中心とした個展「あの日を待つ 明日を待つ 今日」^⑥を開催

2020

2020 年 シュウゴアーツウェブサイトでオンラインショー「心に花を」を開催。《HIKARI》の特別上映も行う

高松市美術館「高松市美術館コレクション + 身体とムービング」^⑦に、小豆島に関する作品群と母子を描いた新作 5 点を展

2021

2021 年 山形美術館で初の美術館個展となる「星、光る」を開催。《ただいま山形》^⑧など生命感溢れる近年の作品と、初期の作品を対比的に見せる

作品集『ここにあるしあわせ』(T&M Projects) を刊行

2022

2022 年「国際芸術祭『あいち 2022』」に《ともだちになるためにぼくらはここにいるんだよ》^⑩ * を展

游庵で個展「ともだちになるためにぼくらはここにいるんだよ」を開催。《ぼくの旅、わたしの旅》^⑪ * ほかを発表

2023

2023 年 シュウゴアーツで個展「わたしはあなたに会いたかった」を開催。同タイトルのポートレートシリーズ^⑫ *、ウクライナの母子への想いから描かれた《ここにあるひかり》、表現者としての自らを見つめ直す《I Love You》^⑬ *、《Painting Girl》* を発表

作品集『ここにいたんだね』(リトルモア) 刊行。紙に描き続けた作品 84 点を近藤の言葉とともに掲載

2025

水戸美術館で「我が身をさいて、みた世界は」を開催

【関連プログラム】

- ・記載がない限り参加費無料・申込不要(要展覧会入場券)、現代美術ギャラリー内が会場です。
- ・【要申込】の申込方法等は当館ウェブサイトでお知らせします。

■ オープニング・トーク

日時：2月15日(土) 13:00～15:00(開場12:30)
出演：近藤亜樹(出品作家)、O JUN(アーティスト)
会場：ワークショップ室
定員：100名(先着順・託児付)

■ 担当学芸員によるギャラリーツアー

本展担当学芸員がツアー形式で展覧会を解説します。
日時：3月23日(日)、4月20日(日) 14:00～(約60分)

■ 【要申込】視覚に障害がある人との鑑賞ツアー「session!」

全盲の白鳥建二さんをナビゲーターに、見える人と見えない人とが一緒に展覧会を鑑賞するツアーです。
日時：2月23日(日) 10:00～12:00／14:30～16:30
定員：各回5名(抽選)
参加費(入場料込)：1,500円、入場料減免対象の方は各600円
申込期間：2月1日(土) 10:00～2月9日(日) 18:00

■ 【要申込】赤ちゃんと一緒に美術館散歩

就学前のお子さんと保護者の方に向けた鑑賞ツアー。
日時：3月25日(火)、3月29日(土) 10:30～12:00
対象：未就学児とその保護者
定員：5組程度(先着順)
参加費(入場料込)：未就学児無料、保護者1,500円、入場料減免対象の方は1,000円(2人目からは入場料のみ)
申込開始：2月1日(土) 10:00

■ ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティア CACギャラリートーカーと対話を通してともに展覧会を鑑賞します。
3月1日(土) より毎週土曜日14:30～(約40分)※館内催事の都合により中止となる場合があります。

◎来場やプログラム参加に際するサポート、事前の情報提供のご希望がございましたら、お気軽にお問合せください。

【同時開催】

■ 高校生ウィーク2025

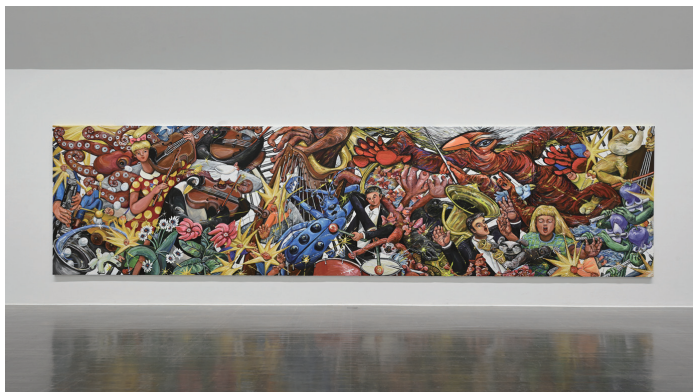
高校生のための展覧会無料招待企画として 1993 年にはじまり、現在では多様な人や価値観に出会う機会を多世代に提供する「高校生ウィーク」。期間中ワークショップ室内に出現する「カフェ」※で、展覧会と連動したワークショップや部活動、読書、裁縫などさまざまなプログラムをどなたでも楽しめます。3月19日(水)にはシニアの皆さまとアートをつなぐプログラム「ブリッジカフェ」も開催します。

※飲物の提供については感染症の状況をみて決定します。

会期：3月8日(土)～4月6日(日)
会場：現代美術ギャラリー ワorkshop室
料金：展覧会入場料に含まれます

【図 版】 展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご要望の方は鳥居までお問合せください。

1



2



3



4



5



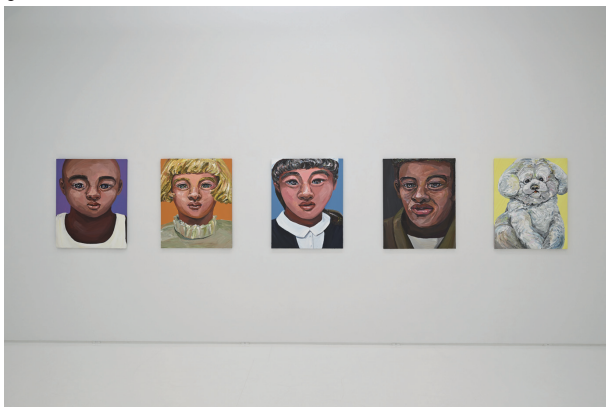
1. 近藤亜樹《ザ・オーケストラ》2024年 ©The artist. Courtesy of ShugoArts. 撮影：武藤滋生
The Orchestra, 2024. ©The artist. Courtesy of ShugoArts. Photo by Shigeo Muto

2～3. 近藤亜樹《ザ・オーケストラ》2024年（部分） ©The artist. Courtesy of ShugoArts. 撮影：武藤滋生
The Orchestra (detail), 2024. ©The artist. Courtesy of ShugoArts. Photo by Shigeo Muto

4. 《ラブコール》2024年 ©The artist. Courtesy of ShugoArts. 撮影：武藤滋生
Love Call, 2024. Courtesy of ShugoArts. Photo by Shigeo Muto

5. 《Morning Dew》2024年 ©The artist. Courtesy of ShugoArts. 撮影：武藤滋生
Morning Dew, 2024. ©The artist. Courtesy of ShugoArts. Photo by Shigeo Muto

6



7



8



9



10



6. 展示風景 近藤亜樹個展「わたしはあなたに会いたかった」シュウゴアーツ、2023年 Courtesy of ShugoArts. 撮影：武藤滋生
Installation view: "I wanted to See You" Shugo Arts, 2023. Courtesy of ShugoArts. Photo by Shigeo Muto

7. 《みんななまえがあるんだね》（シリーズ「わたしはあなたに会いたかった」より）2023年 個人蔵
©The artist. Courtesy of ShugoArts. 撮影：武藤滋生
Everyone Has Their Names (from the series "I Wanted to See You"), 2023. Private collection.
©The artist. Courtesy of ShugoArts. Photo by Shigeo Muto

8. 《ともだちになるためにぼくらはここにいるんだよ》2022年 森美術館蔵 ©The artist. 撮影：武藤滋生
We're Here on Earth to Be Friends, 2022. Collection of Mori Art Museum. ©The artist. Photo by Shigeo Muto

9. 《I Love You》2023年 桶田コレクション蔵 ©The artist. Courtesy of ShugoArts. 撮影：武藤滋生
I Love You, 2022. OKETA COLLECTION. ©The artist. Courtesy of ShugoArts. Photo by Shigeo Muto

10. 《Planets》2022年 個人蔵 撮影：武藤滋生. ©The artist. Courtesy of ShugoArts.
Planets, 2022. Private collection. ©The artist. Courtesy of ShugoArts. Photo by Shigeo Muto

プレス向け内覧会のお知らせ

2025 年 2 月 14 日（金） 14:00 ～ 15:30 受付開始 13:30

場所：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者：近藤亜樹（出品作家）

後藤桜子（水戸芸術館現代美術センター学芸員）

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について：後藤桜子（学芸員）

教育プログラムについて：森山純子、中川佳洋（教育プログラムコーディネーター）

広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp

*詳細は公式X http://twitter.com/MITOGEL_Gallery でも配信いたします。

【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号029-227-8111でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることのできない場合がございます。

【交通のご案内】

[JR] 東京駅（品川、上野発もあり）から常磐線特急で約72分～84分、水戸駅下車。
北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町1丁目」下車。徒歩2分。

[高速バス] 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」水戸駅行き
（赤塚又は茨大ルート）で約100分、「泉町1丁目」下車、徒歩2分。

[お車] 常磐自動車道水戸ICから国道50号線を水戸市街地方面へ約20分。
◎市営五軒町駐車場があります。
地下駐車場（217台）7:00～23:00
立体駐車場（283台）24時間
料金：30分まで無料、1時間まで200円、以降30分ごとに100円 1日上限700円

【お知らせ】

今後のプレスリリースの発行を郵送からメルマガ配信へと移行します。配信への移行を希望される方はメールアドレス・ご所属・ご氏名を cacpr@arttowermito.or.jp までご連絡いただくか、QRコードを読み込みの上、お申込みください。

